

プロジェクト情報

- 国名：パキスタン・イスラム共和国
- 事業名：シンド州南部農村部女子前期中等教育強化計画（無償資金協力）
- 協力期間：2014 年から 2016 年
- 相手国機関：シンド州学校教育・識字局

1. プロジェクトの背景・概要

パキスタンでは、基礎教育へのアクセスが改善の傾向にあります。しかし、就学率は周辺他国と比較すると、初等教育と前期中等教育において依然として低いままです。本プロジェクトの対象地域であるシンド州では、2013 年当時、就学率は初等教育が 50%、前期中等教育が 13%と国内平均を下回り、特に農村部の女子生徒の小学校就学率は 36%、中学校就学率はわずか 7%と深刻な状況にありました。

このような状況のもと、JICA は 2014 年からシンド州南部農村部において、無償資金協力を通じた支援を行ってきました。既存の小学校（5～9 歳を対象）の敷地内に、女子中学校（10 歳～12 歳を対象）専用の教室・施設を増築し、また老朽化し安全性が低下している小学校の教室を建て替えることで、女子生徒の基礎教育へのアクセス向上と教育機会におけるジェンダー格差の縮小を目指しています。

2. ジェンダー視点から見たパキスタンの基礎教育

パキスタンでは、小学校高学年または中学校から、教室や校舎が男女別に分けられる学校が多くあります。農村部では、女子中学校が自宅から通える距離にない場合に、小学校卒業後、女子であることが理由で中学校への進学を断念せざるを得ない女の子が多いのが現状です。実際に、パキスタンにおいて、通学距離が 0.5 km 延びると、女子の就学率は 20%も低下することがわかっています（世界開発報告, 2012）。また、学校が家から遠いことに加えて、トイレや手洗い場が整備されていないことが、女子の就学率を低下させる要因となっています。

しかし、女の子が学校に行って学び続けることができれば、自分の可能性を信じる気持ちが強くなり、自信や社会力、交渉のスキル、将来の収入、暴力や不健康から身を守る力をつけられるようになります。そのため、教育におけるジェンダー格差の解消は喫緊の課題となっています。

3. ジェンダー視点に立った取り組みと成果

本プロジェクトによる取り組みの結果として、以下のような成果が見られました。

(1) 多くの女子中学生に学ぶ機会が開かれる

シンド州南部地域では、29校で、女子前期中等教育のための教室が完成し（2016年11月）、新学期である2017年4月から授業が始まりました。この協力により、29校で約3,800人の中学生（6, 7, 8年生）を受け入れできる教室が整備されました。

さらに、同州北部地域では、2016年3月に25校で同様の支援が決定し、2018年12月末には全25校の教室が完成する予定です。すべての学校で教室が完成すると、約2,800人が中学生として就学可能になると見込まれています。

(2) 女子生徒が安心して勉学に集中できる環境が整備される

同州南部地域の女子初等学校 12 校において、安全性に問題があった既存の 37 教室が建て替えられることで、女子生徒の就学環境が改善されました。

さらに、女子生徒が小中学校を中退する理由の一つに、男女別のトイレが設置されていないということがありますが、本プロジェクトの実施によりトイレが整備されたことで、女子生徒が安心して学校に通えるようになりました。

写真）完成した教室で学ぶ予定の女子小学生達

本プロジェクトによって、農村地域の女子生徒の就学率が改善し、ジェンダー格差の是正につながりました。女子中学

生が通える教室や校舎が増築されることで、これまで進学を諦めていた女子生徒が通学できるようになり、将来の選択枝や未来の可能性が広がり、教育におけるジェンダー格差解消に大きく貢献しました。

